

「軽井沢駅が駅そば発祥の地」調査（その1）

小川達朗（7組）

はじめに

[駅そば発祥の地] についてはいろいろな説があり、軽井沢駅説が有力とされるものの確かな根拠はなく、紹介される文面には、必ず「諸説があるが・・・」との枕詞がついて詳細は不明となっています。この手の話は、その曖昧さがロマンを醸すこともありますが、発祥の地が軽井沢駅であるなら「そば処信州」としては一つの歴史的財産であり、ハッキリさせたいという思いもありました。



私が「駅そば発祥の地」が軽井沢駅であることの根拠を追ったのは、私の実家が軽井沢でかつて駅そばを販売していた「油屋旅館」の縁戚にあたることによります。実はそのため度々取材を受けることもありましたが、ハッキリした根拠もないことから祖母や両親から聞いていた伝聞程度のもので対応するしかなく、申し訳ない思いでいました。

そのような中、弟の亮夫(69期)がサラリーマンを卒業し東京に戻ったことから、それを契機と一緒に調査を始めることとしました。

以下は、3年前に亮夫がまとめたレポートです。ご一読いただければと思います。

なお、これまでの調査資料を信濃毎日新聞佐久支社に提供したところ、「信毎デジタル」で取り上げていただくとともに、ネットにも掲載いただき反響を得ています。

興味がありましたら「駅そば発祥の地」をネット検索していただけたらと思います。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/bf23a0feb6b31cbd04b5eea27f3396466f1c5ef4>

(2026年1月5日)

駅そば発祥の地調査

小川亮夫（69期）

《軽井沢「油屋旅館」》

さいたま市大宮区にある「鉄道博物館」、ここには鉄道に関する車両、歴史、仕事、科学、未来に分けた多彩な切り口の展示があり、人々と鉄道の繋がりを知ることやシミュレータでの操作体験等が出来ることから多くの人が賑わっている。その一角に「鉄道文化ギャラリー」があり、鉄道に関わる書籍、映画、音楽、絵画から駅弁や駅そばまで鉄道と文化の繋がりを展示している。

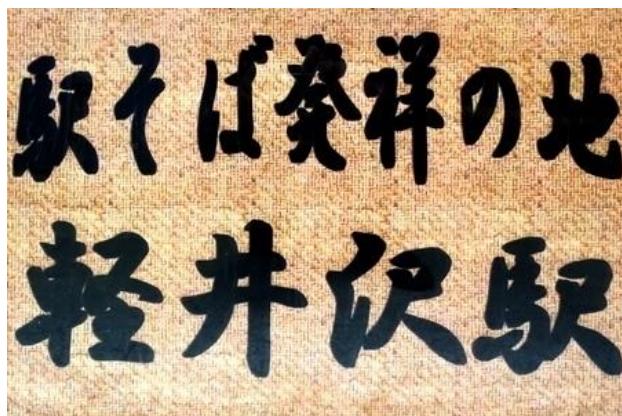
「駅そば」のコーナーには駅そばにまつわる話が Q&A のようになっていて「駅そばはいつから？」という問い合わせがある。そこには「諸説あり詳細は不明だが、信越本線の軽井沢駅を始まりとする明治30年代説のほか函館本線の森駅や長万部駅が発祥地という説もある」と紹介されている。

軽井沢における駅そばの営業開始時期については、昭和33年5月に社団法人国鉄構内営業中央会が発行した「会員の家族とその沿革」で知ることができる。その記載によると、軽井沢駅での構内営業は明治25年4月1日に内務省所管鉄道庁長官から油屋旅館に許可されたとあ

る。油屋旅館に許可が下りた理由は、「明治 25 年、碓氷トンネル開通その他鉄道の敷設工事に
関し各般の協力熱意を認められて営業の許可を受けた」とあることから旅館業を営んでいた油
屋旅館はトンネル工事の期間に食事や休憩、宿泊などで多くの貢献をしたことによるものではな
いかと考えられる。

また、昭和 28 年 7 月 16 日に油屋旅館が有限会社油屋旅館に法人化した際に更新承認され
ているが、駅そばについては、「ホーム売店：麺類（そば）と生玉子」の記載のなかに「15 平
米未満、創業当初よりの営業で、法人組織に変更した際、ホーム立売と同時に変更承認」とある
ことから、軽井沢駅での駅そばの営業開始も明治 25 年 4 月 1 日と判断できる（軽井沢での駅
そばの始まりは明治 30 年代ではなく明治 20 年代となる）。

油屋旅館における駅そばの販売については「信州の駅弁史」（昭和 54 年 5 月、国鉄構内営
業中央会長野支部発行）にも同様の記載があることからその内容は検証がなされたものと考え
る。



軽井沢駅の看板

大正時代の軽井沢「油屋旅館」
小川達朗君提供

(2023 年 1 月 15 日 記)

(その 2 に続く)

【参考文献等】

- ・「会員の家族とその沿革」
昭和 33 年 5 月 国鉄構内営業中央会
- ・「日本国有鉄道百年史」
昭和 47 年 10 月 14 日 日本国有鉄道
- ・「国鉄と構内営業（国鉄構内営業 100 年
史）」 昭和 47 年 8 月 坂田俊夫
- ・「鐵道一瞥」 大正 10 年 10 月 14 日
- ・「信州の駅弁史（長鉄支部会員の歩み）」 昭和 54 年 5 月
- ・「実用そば辞典」 植原路郎
- ・「北海道駅弁史」平成 10 年 2 月 20 日 (社)日本鉄道構内営業中央会北海道北区本部
- ・「みちの記」 森鷗外
- ・日経新聞（2016 年 10 月 15 日）
- ・鉄道博物館 鉄道文化ギャラリー



以上